

事務事業評価シート (評価対象年度：令和 2 年度)

1. 基本的事項【PLAN】

①事務事業名	GIGAスクール機器等整備事業(小・中学校情報機器整備事業/施設保全整備事業)				②事業番号	7511	
③事業類型	1. 法上(必須)事業			④開始年度	令和 2 年度	⑤終了予定年度	令和 2 年度
⑥根拠法令等	<input type="radio"/> 法令	<input type="radio"/> 条例	<input type="radio"/> 規則	<input type="radio"/> 要綱	<input type="radio"/> 計画等	<input type="radio"/> その他	法令等の名称
⑦実施手法	<input type="radio"/> 直営	<input type="radio"/> 全部委託	<input type="radio"/> 一部委託	<input type="radio"/> 補助・負担	<input type="radio"/> その他		
⑧関連予算科目コード	款	9	項	①1 ②3	目	3	細目
⑨担当部名	教育部		⑩担当課名	指導課		会計	一般会計

2. 事務事業の現状把握【DO】

【1】事務事業の目的・事業内容

(1)対象(誰、何に対して事業を行うのか)	対象指標(対象者数を表す指標)	単位
①小、中学校の児童生徒	①小、中学校の児童生徒	人
②	②	人
(2)事業内容(具体的な事務事業の内容、どのような方法で実施しているか)	活動指標(活動の量を表す指標)	単位
Society 5.0時代を生きる子供たちにとって、教育におけるICTを基盤とした先端技術等の効果的な活用が求められる一方で、現在の学校ICT環境の整備は遅れており、自治体間の格差も大きい。令和時代のスタンダードな学校像として、全国一律のICT環境整備が急務。このため、1人1台端末及び高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備するとともに、並行してクラウド活用推進、ICT機器の整備調達体制の構築、利活用優良事例の普及、利活用のPDCAサイクル徹底等を進めることで、多様な子供たちを誰一人取り残すことのない、公正に個別最適化された学びを全国の学校現場で持続的に実現させる。	①小、中学校の児童生徒	人
	②小、中学校数	校
	③	
(3)意図(対象をどのような状態にしたいか、何をねらっているのか)	成果指標(意図の達成度を表す指標)	単位
・児童生徒の1人1台端末の実現 ・1人1台端末で利用可能な校内無線LAN環境の構築	①小、中学校の児童生徒	人
	計算式	
	②小、中学校数	校
	計算式	
	③	
	計算式	
(4)結果(対象を意図する状態にすることで、何に結びつか。上位施策との関連)	総合計画体系上の位置付け	
PC 端末は鉛筆やノートと並ぶマストアイテムであり社会のあらゆる場所で ICT の活用が日常のものとなっているなか、GIGAスクール事業によりすべての子供たちが時代に取り残されることなく、公正に個別最適化された学びを全国の学校現場で持続的に実現できる。	政策(章)	1: すべての人が尊ばれ、その個性が発揮できるまち
	施策大(節)	3: 子どもが豊かな人間関係と学ぶ喜びを育むまちをめざします
	施策中	2: 義務教育の充実
	施策小	1: 生きる力の育成

【2】各種指標値、事業費の推移

	指標名	単位	H30実績	R1実績	R2実績	R3見込	R4目標	
対象指標①	小、中学校の児童生徒				4,834	0	0	指標値の推移における特殊要因などの説明
対象指標②								
活動指標①	小、中学校の児童生徒	人			4,834	0	0	
活動指標②	小、中学校数	校			14	0	0	
活動指標③								
成果指標①	小、中学校の児童生徒	人			4,834	0	0	
成果指標②	小、中学校数	校			14	0	0	令和2年度で終了の為。
成果指標③								
事業費	投入人員	人			1.25	0.00	0.00	
	任期付職員	人			0.00	0.00	0.00	
	臨時職員	人			0.00	0.00	0.00	
	事業費	千円			9,540	0	0	
	直接事業費	千円			334,568	0	0	
	総事業費	千円			344,108	0	0	—
財源内訳	国庫支出金	千円			188,559	0	0	
	府支出金	千円			0	0	0	
	受益者負担金	千円			0	0	0	
	その他特定財源	千円			0	0	0	
	一般財源	千円			155,549	0	0	

【3】事務事業開始の経緯、状況の変化、評価結果への対応

①この事業を開始したきっかけは何か。	国のGIGAスクール構想がコロナ禍により5年前倒しでの事業となったため
②開始から現在までこの事務事業を取り巻く状況は、どのように変化したか。また、今後どのように変化していくと考えられるか。	導入が進んだことにより、オンライン学習など臨時休校となった場合でも対応可能な準備が完了した。今後使用されていくことにより主体的、対話的な学びが進むと考えられる。
③前年度の評価結果を受けて行った改革・改善の取組はあるか。	なし(令和2年度からの事業の為)

### 3. 事務事業の評価【CHECK】

[1]目的妥当性(必要性)		A.高い	B.やや高い	C.やや低い	D.低い	[1]の評価	A
評価項目	評価及び理由・説明等						
①事業サービス内容、質、規模等は市民のニーズや社会環境に合っていますか。 (他団体と比較してどうですか。)	ア. 合っている イ. ある程度 ウ. いない	国のGIGAスクール構想であるため。					

[2]有効性		A.高い	B.やや高い	C.やや低い	D.低い	[2]の評価	A
②期待どおりの成果が得られていますか。	ア. 得られている イ. ある程度 ウ. いない	全ての子どもたちに行きわたり授業の変化が起き始めている。					
③今後事務事業を工夫することで成果向上の余地はありませんか。 (事務事業の成果指標をさらに伸ばすことができませんか。)	ア. ある イ. ない	教職員研修を行い、さらにレベルの高いICT教育へ進める。					
④庁内の他部署で、類似の目的を持つ事務事業はありませんか、それらと統廃合や連携を行うことで、より成果を向上できますか。	ア. 類似なし イ. できる ウ. できない	小中学校教育独自の事業であるため。					

[3]効率性		A.高い	B.やや高い	C.やや低い	D.低い	[3]の評価	A
⑤成果を下げずに事業を工夫してコスト(直接事業費+人件費)を削減する手法はありませんか。 (業務改善、業務の委託化、委託業務内容の見直し、IT化などはできませんか。)	ア. ある イ. ない	-					

### 4. 総合評価

総合評価	評価(A~D)	個別評価の結果を踏まえて課題等を整理	
	B	ネットワーク環境においてはLTE端末で対応しているが校内無線LANの高速化が課題。	A: 現状のまま事業を進めることが適当 B: 課題が少しあり事業の一部見直しが必要(事業の進め方に改善が必要) C: 課題が多くあり事業の大幅な見直しが必要(事業規模、内容、実施主体の見直しが必要) D: 事業の統合、休止・廃止の検討が必要

### 5. 改革、改善案【ACTION】

<今後の方向性>	
ウ	ア. 現状のまま継続      イ. 見直しのうえで継続 ↓ ウ. 終了      エ. 休止      オ. 廃止 ( 2 年まで)      ( 年 年 から)      ( 年 年 から)
<今後の展開方針>	
	a. 重点化する(集中的なコスト投入)      b. 手段を改善する(実施主体や実施手段を変える) c. 効率化する(コストを下げる)      d. 簡素化する(規模を縮小する)      e. 統合する(他の事務事業と統合する)
①改革、改善の具体案、実施年度など	-
②改革・改善を実現するうえで、解決すべき課題及び考えられるその解決策	-